



貫井・富士見台地区 密集住宅市街地整備促進事業 事業化のスケジュール(予定)

平成 23 年度の密集事業開始に向けて、おおむね以下のようなスケジュールを予定しています。

H21年度

- 密集事業の整備計画等検討会を設立
- 検討会による、密集事業の整備計画（素案）および事業計画（素案）を検討、作成
- 震災復興模擬訓練を実施

H22年度

- 密集事業の整備計画（素案）および事業計画（素案）について、地域の皆様へ説明会を開催、アンケート調査を実施
- 説明会、アンケート調査によるご意見を受け、密集事業の整備計画（案）および事業計画（案）を作成
- 国へ密集事業承認申請、事業承認取得

H23年度

密集事業開始

～災害に強く、安全で快適なまちの実現に向けたまちづくり事業～

まち歩きワークショップに参加しませんか？

【日時】 11月15日(日)
午後1時～4時
【集合】 貫井福祉工房 2階活動交流室2
(練馬区貫井 2-16-12)

検討会では、貫井・富士見台地区の防災まちづくりに
ついて、検討を進めています。

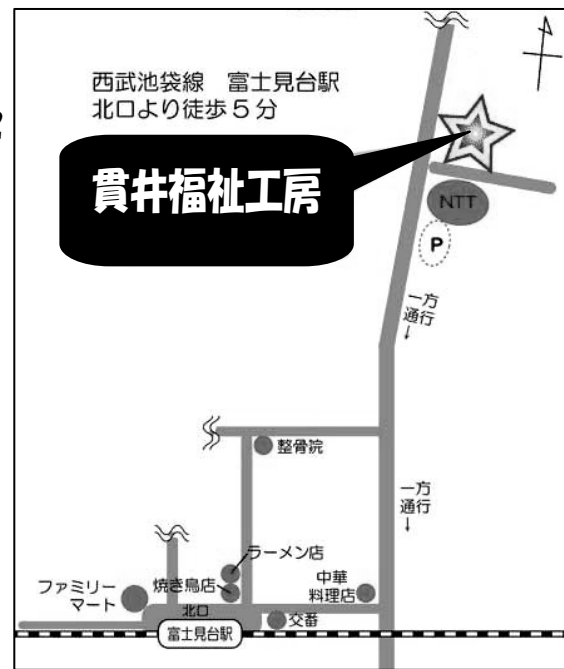
今回は、検討会で意見のあった、まちの魅力的なところ
や直したいところ、防災に役立つ資源や防災上の問題
点などを点検するために、まち歩きを開催します。

住民の方と一緒にまち歩き（1時間程度）をすること
によって、普段は気が付かなかった新たな発見があるか
もしれません。

みなさまの参加をお待ちしております。

ぜひ、お気軽にご参加ください。

(参加ご希望の方は、お手数ですが下記までご連絡ください)



■お問い合わせ先

練馬区 環境まちづくり事業本部 都市整備部 東部地域まちづくり課
(担当：田中、二森、竹内、星野)

〒176-8501 練馬区豊玉北 6 丁目 12 番 1 号 電話：03-5984-4749 (直通)

編集協力：株式会社マ又都市建築研究所

貫井・富士見台地区

平成 21 年 11 月 発行

防災まちづくりニュース

第 1 号

【発行】練馬区 環境まちづくり事業本部 都市整備部東部地域まちづくり課

……➤ 「貫井・富士見台地区」を対象に

密集住宅市街地整備促進事業の 導入に向けて検討を開始しました

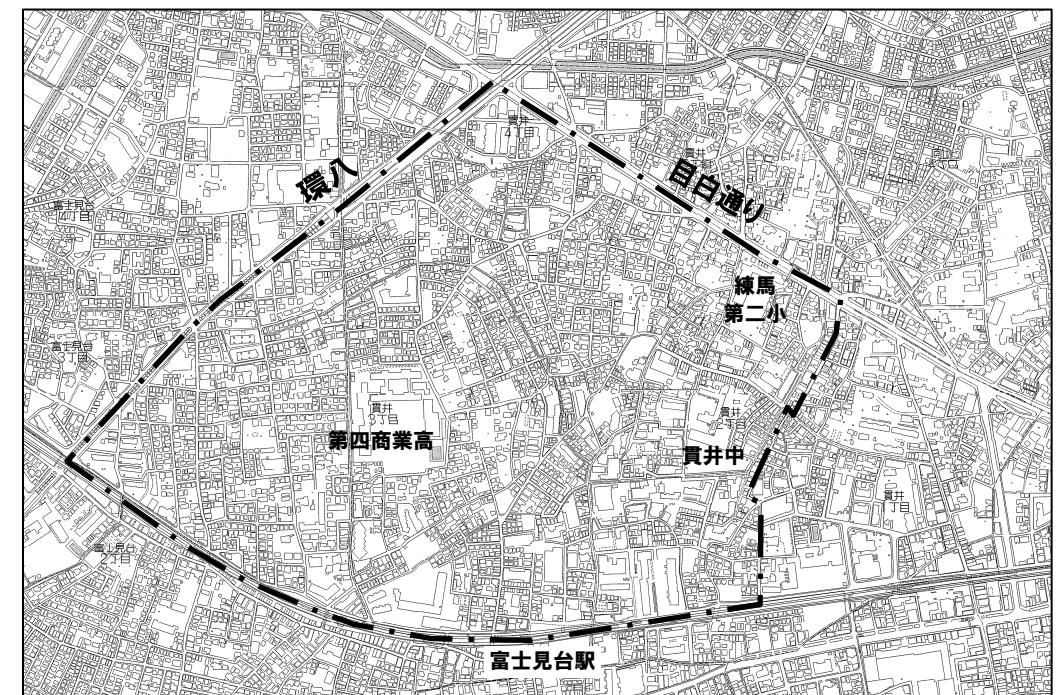
練馬区では、災害に強く、安全で快適なまちをめざし、密集住宅市街地整備促進事業（以下「密集事業」といいます。）を実施し、道路や公園の整備、災害に強い住宅への建替促進等を図っています。

これまで、区内では 3 つの地区（練馬地区、江古田北部地区、北町地区）で、密集事業に取り組んできています。（練馬地区：平成 17 年度事業完了）

区では、密集事業を新たな地区で取り組むために、平成 20 年度に区内全域を対象に市街地の現況調査および現況評価を行い、事業候補地区として「貫井・富士見台地区」（下図の区域）を選定しました。

そこで、災害に強いまち、安全で快適なまちの実現に向けて、町会・商店会の代表の方を中心に、「貫井・富士見台地区密集事業整備計画等検討会」を設立し、地区の範囲を含めて防災まちづくりの検討を始めました。

検討会の様子は3頁へ



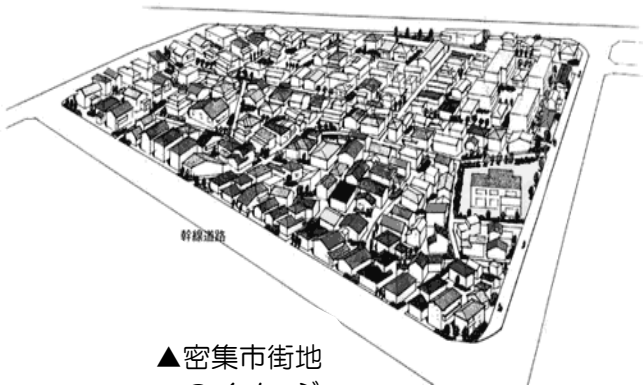
▲検討対象区域（約 85ha/貫井 1～5 丁目の一部、富士見台 3～4 丁目の一部）



防災まちづくりって何？

■ 「密集市街地」とは何か

密集市街地とは、狭い道路で街が構成され、広場や公園等のオープンスペースも少なく、建物が密集している市街地を言います。老朽化した建物も多く、安全な避難経路や緊急車両が入れる道路も少ないため、震災等が起こった場合、建物の倒壊や火災の延焼による被害が大きくなる可能性があります。



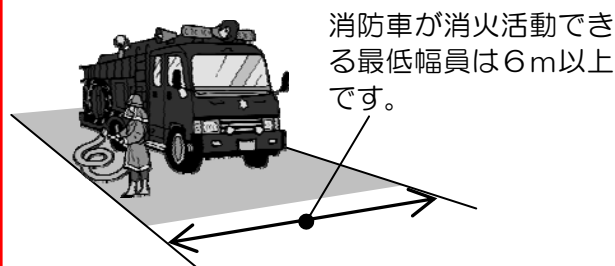
▲密集市街地のイメージ

■ 「防災まちづくり」とは、「密集市街地」を、災害に強い構造に改善し、大きな被害を受けにくくする取り組み

住民の方々と行政が協力しながら、以下のような取り組みを総合的に進めていくことです。

道路づくり

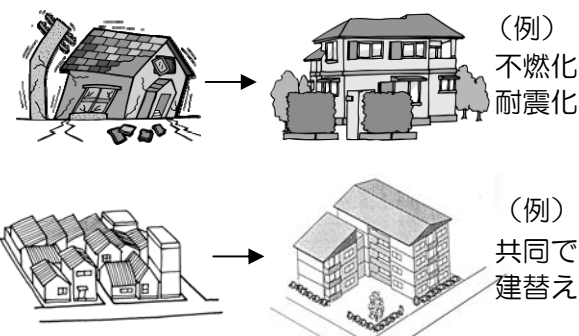
いざというときに、安全な避難路となったり、消防車や救急車が通れるような防災道路を地区内に整備します。



消防車が消火活動できる最低幅員は6m以上です。

建物づくり

震災が起こっても、倒れにくく、燃えにくい建物への建替え等の推進を図ります。



公園・広場づくり

火災による延焼拡大を食い止める空地として、また、震災時の防災活動拠点として、地区内に公園や広場を整備します。



防災公園の例

地域の防災活動

まちのハード面の整備と並行して、いざというとき、住民が協力して初期消火や避難・救出できるように日頃から備えておきます。



防災訓練の例

検討会の開催報告

検討会では、貫井・富士見台地区の防災まちづくりのあり方について検討を進めています。



■ 防災の目でまちを見てみよう！（第2回検討会・9/15開催）

地区別に3グループ（貫井1・2、貫井3～5、富士見台）に分かれて、まちの拡大地図を囲んで、自分のまちを防災の視点で見た上で、「すでにある大切にしたい防災資源」や「改善すべき点」などについて話し合いました。



▲当日の様子

当日の主なご意見の紹介

<すでにある大切にしたい防災資源>

- 防災拠点となる小中学校は地区内に多い
- 公園のほか、駐車場、農地などの空地も結構ある
- 今のまちは住みやすい

<改善すべき点>

- 拡幅された道路はあるのに、道路の入口付近だけ幅が狭いなど、道路同士のつながりが悪い
- 地震で倒壊の危険があるブロック塀がみられる
- 相続等で敷地が細分化されてしまっている
- 庭木などの緑が減っている
- 木造住宅が特に密集する街区は火災が心配 など

■ まちの被害と問題を確認しよう！（第3回検討会・10/20開催）

貫井・富士見台地区に想定される地震被害について、東京都が公開している情報と、コンピューターを使用した災害シミュレーションで確認した後、グループに分かれて、災害時の問題点や対策について話し合いました。

そして、最後に、「まち歩き」（11/15開催）のルートを話し合いました。



▲当日の様子

当日の主なご意見の紹介

- 地区全体の道路のつながりを確保して、逃げやすい環境づくりを進めていく
- 震災時でも消防車も通れるような地区内の防災道路や防災拠点となる公園・広場をどこに、どのように整備していくか考えていく必要がある
- 燃えにくい建物がまちに増えると火災の延焼被害が少なくなる
- 地震が起こっても消防水利として使える防火水槽が不足している区域がある。消防車が入れる道路や公園とあわせて整備すると効果がある
- 木造住宅が密集する地区の改善は、住民同士で話し合いながら進めていくことが大切 など